

**YAMAHA**

# **DSR-100PRO**

**NATURAL SOUND DIGITAL SURROUND DECODER**

**取扱説明書**

ご使用前に必ずお読みください。

# YAMAHA DSR- 100PRO

このたびは、YAMAHAデジタル・サラウンド・デコーダDSR-100PROをお買い求めいただきまして、まことにありがとうございました。

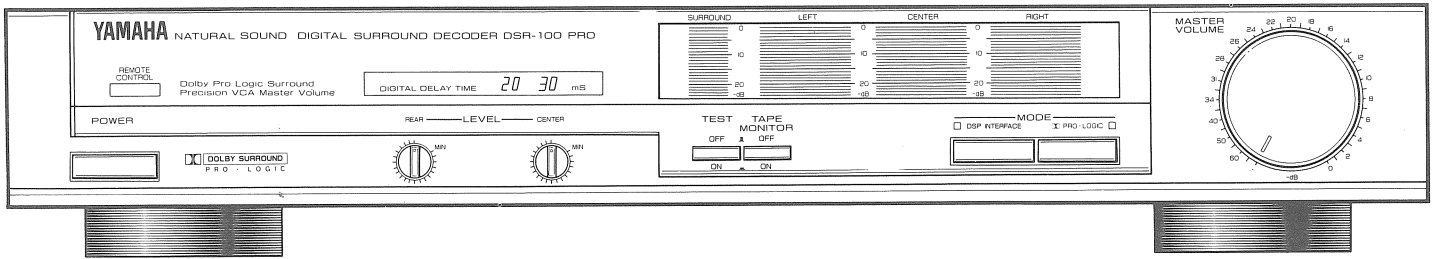
DSR-100PROの優れた性能を十分に発揮させ、末長くご愛用いただくために、この取扱説明書を、ご使用前にぜひお読みくださいますよう、お願いいたします。

またこの取扱説明書は、お読みになった後も、保証書とともに大切に保管してください。

## 目次

特長.....	2	再生のしかた.....	16
豊かなAVライフのために.....	3	ドルビー・プロ・ロジック・サラウンド再生.....	16
ご使用のまえに.....	4	通常のスtereo再生.....	16
ドルビー・プロ・ロジック・サラウンドとは.....	5	録音のしかた.....	16
スピーカのレイアウトについて.....	7	DSPとシステムを組むには.....	17
接続のしかた.....	8	スピーカについて.....	17
リアパネル各部の名称とはたらき.....	8	接続のしかた.....	18
接続のしかた.....	9	再生の準備.....	20
その他の接続.....	11	再生のしかた.....	20
再生のまえに.....	12	故障かなと思ったら.....	21
フロントパネル各部の名称とはたらき.....	12	参考仕様.....	21
リモコンについて.....	13	ヤマハホットラインサービスネットワーク.....	22
再生の準備.....	14		

# 特長



DSR-100PROはヤマハのデジタル技術を駆使して開発されたデジタル・サラウンド・デコーダです。

本機の搭載したドルビー・プロ・ロジック・サラウンド・デコーダは、ビデオソフトを始めとするドルビー・サラウンドでエンコード(録音)されたソースの再生時に、その威力をいかに発揮することができます。

## ●豊かな臨場感

ドルビー・プロ・ロジック・デコーダの特長である、方向性強調回路の働きにより、音像の移動感、チャンネルセパレーションに優れた再生をすることができます。また、新たに付加されたセンターチャンネルは、映画などのビデオソフト再生時にはセリフ部分をはっきりと中央に定位させますので、画面への集中感が得られます。

## ●デジタルディレイLSIを搭載

SNに優れた、新開発のデジタル・ディレイLSIを搭載。ディレイタイムは、再生するソースやリスニングルームの状況により、選択することができます。

## ●高性能7連VCA採用のマスターボリュームコントロール装備

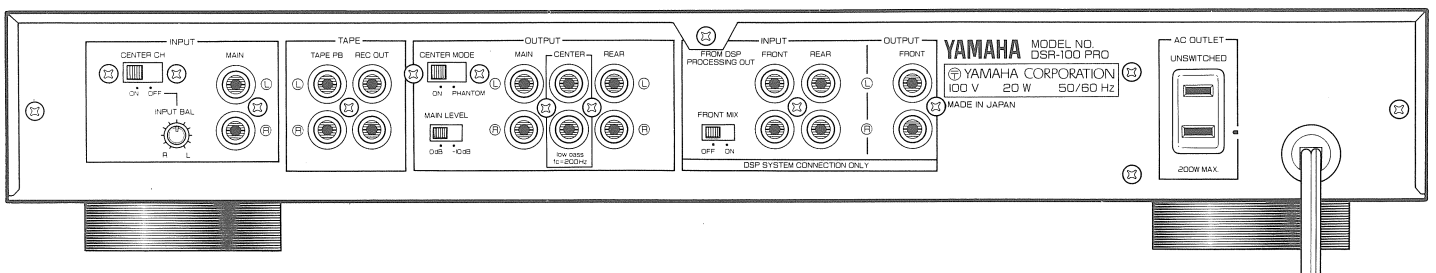
各チャンネルレベルの調整後は、マスターボリュームでシステム全体の音量をコントロールすることができます。

## ●DSPとのインターフェース端子を装備

本機はヤマハのオムニサウンド・DSPとのインターフェース端子を装備していますので、DSPとシステムアップすることにより、本格的なAVサラウンド・システムを構成することができます。

**DOLBY SURROUND PRO LOGIC** はドルビーラボラトリーズライセンスングコーポレーションからの実施権に基づき製造されています。

ドルビー、DOLBYおよびダブルD記号 **DD** はドルビーラボラトリーズライセンスングコーポレーションの登録商標です。

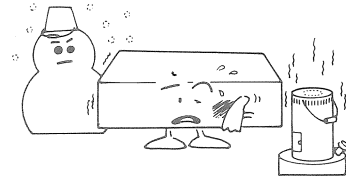
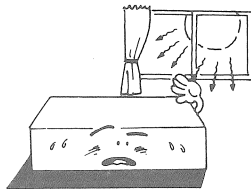


# 豊かなAVライフのために

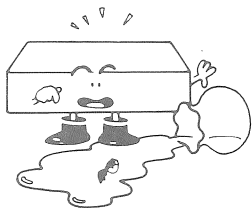


## 高温・低温はさけて！

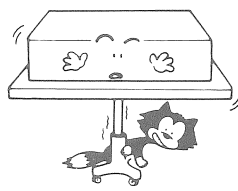
窓際や直射日光の当たる場所・暖房器具のそばなど極端に暑い場所(周囲温度40℃以上)・温度の特に低い場所(周囲温度-5℃以下)・湿度の多い場所(湿度90%以上)は、さけてください。



## ほこり・水気をさけて！

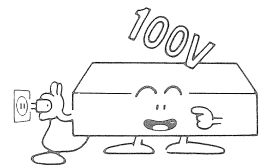


## 不安定な場所をさけて！

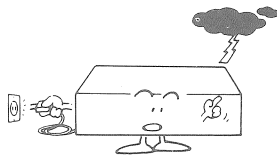


## 国内のみ使用可

家庭用電源コンセント  
AC100V

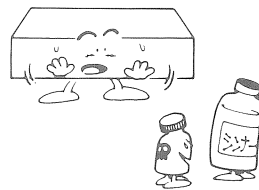


## 雷が近づいたら

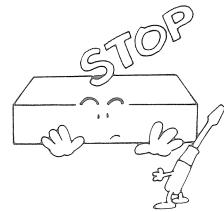


早めに電源プラグをコンセントから抜いてください。

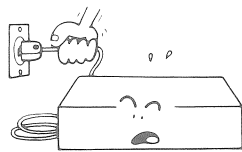
## 薬物厳禁



## 開けないで！

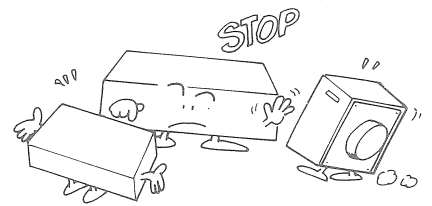


## 引っぱらないで！



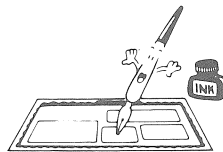
## チューナやテレビと近付けない！

本機はデジタル信号を扱いますので、電波を扱う機器に障害を与える場合があります。チューナやテレビなどとはできるだけ離して設置してください。障害をなくすために、チューナやテレビのアンテナには外部アンテナを使用し、同軸ケーブルで配線することをお勧めします。



## 保証書の手続きを！

お買い求めいただきました際、購入店で必ず保証書の手続きを行なってください。保証書に販売店名、購入日などがありませんと、保証期間中でも万一サービスの必要がある場合に実費をいただくことがありますので、充分ご注意ください。



## こわれた？

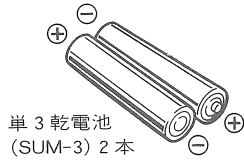


21ページの「故障かなと思ったら」をご覧ください。

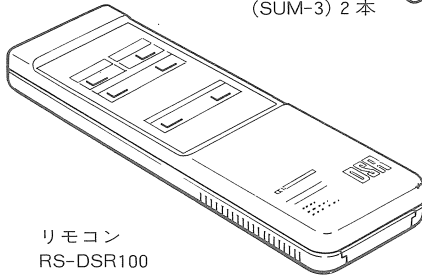
# ご使用のまえに

## ■付属品を確認してください。

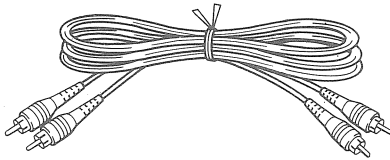
付属品は3種類あります。



単3乾電池 (SUM-3) 2本



リモコン RS-DSR100



ピンプラグコード4組

## ■設置場所について

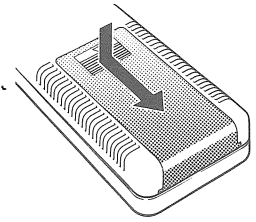
本機を発熱をとまなうアンプの上などに設置したり、通気性の悪いラックなどに入れてご使用になりますと、本機に悪影響があります。ご使用の際は、必ず通気性の良い場所に設置してください。

## ■リモコンについて

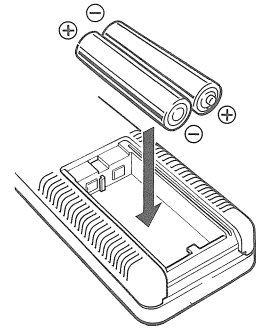
リモコンをご使用になるまえに、付属の単3乾電池を、リモコンにセットしてください。

### ●電池のセットのしかた

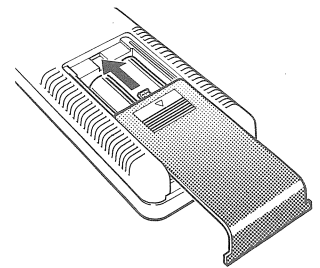
①リモコンの裏のふたをはずします。



②SUM-3(単3)型乾電池2個を⊕⊖を正しく入れてください。



③電池をセットしましたらカチッと音がするまでしめめます。



### ●電池の交換時期は？

リモコン操作できる距離が短くなってきたら電池が消耗しています。このときは、2本とも新しい電池に交換してください。

### ●乾電池についてのご注意

- プラス(⊕)とマイナス(⊖)の向きを、リモコンの電池ケースの表示通りに正しく入れてください。
- 弱ってきた電池は、早めに交換してください。
- 新しい乾電池と一度使用したものを混ぜて使わないでください。
- 種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。同じ形状でも性能の異なるものがあります。
- 電池には充電式とそうでないものがあります。電池の注意表示をよく見てご使用ください。
- 電池の⊕と⊖を金属片で直接つなぐこと(ショート)はしないでください。
- 長い間リモコンを使わないときは、電池を取り出しておいてください。
- 分解や加熱をしたり、火の中に入れてたりしないでください。万一液もれが起こったときは、電池入れについた液をよくふき取ってから、新しい電池を入れてください。

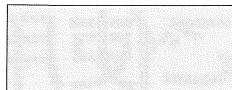


これは電子機械工業会「音のエチケット」キャンペーンのシンボルマークです。

### 音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を充分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

# ドルビー・プロ・ロジック・サラウンドとは



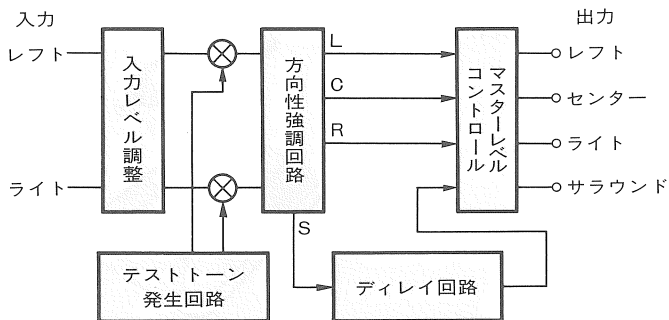
## ■ドルビー・プロ・ロジック・サラウンド・デコーダとは

劇場など業務用に使われているドルビー・プロ・ロジック・サラウンド・デコーダと同様の働きをするデコーダを搭載したDSR-100PRO…。

本機は、これまで一般的に使われていたパッシブタイプの「ドルビー・サラウンド」とは異なり、アクティブタイプと呼ばれる新しい回路構成から成り立つ「ドルビー・プロ・ロジック・サラウンド回路」を採用したサラウンド・デコーダです。

加えて、L・R・C・Sの各信号を独立してコントロールする「方向性強調回路」では、音像をより鮮明に定位させることができるようになりました。例えば、映画のセリフ部分などセンターから出るべき音は、従来の「ドルビー・サラウンド」がL・Rの単純な合成で創っていたものに対し、ドルビー・プロ・ロジック・サラウンドでは、独立したC(センター)チャンネルに定位することになりますので、これまでにない画面への集中感が得られることになります。また、音像がセンターにある場合はL/Rの音量レベルが下がり、さらに音像がRに移る場合はセンターとLの音量レベルが下がるなど、音の移動感は際立っています。この点など、まさに音像の「方向性」を「強調」する「回路」設計となっています。

### 「ドルビー・プロ・ロジック・サラウンド・デコーダの基本構成」



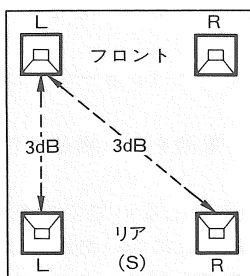
## ■方向性強調回路とは

ドルビー・プロ・ロジック・サラウンド・デコーダのもつ最も大きな特長に「方向性強調回路」があります。

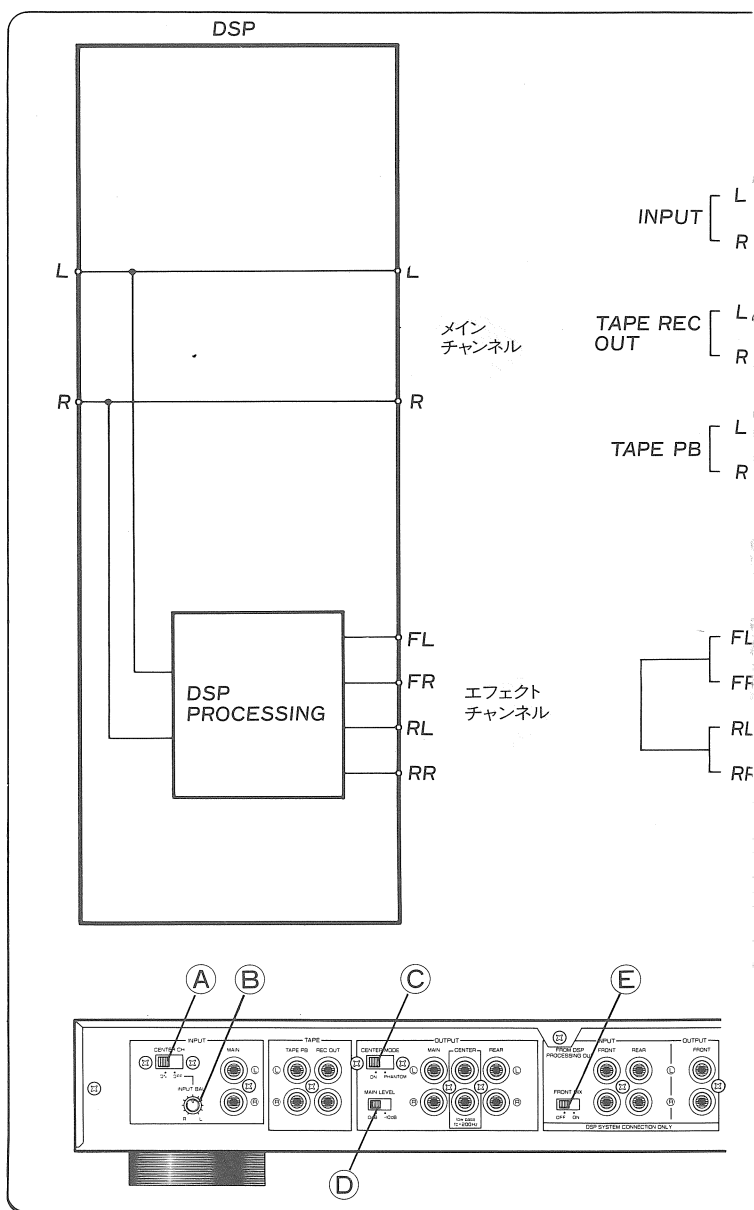
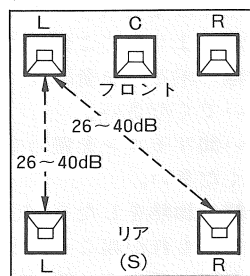
その動作原理を簡単に説明しますと、デコーダへ入力されたL, R信号はL, R, (L+R), (L-R)の間でレベルの優劣判定が行われ、その結果、各チャンネルごとのコントロール電圧が決定されます。次に8chのVCAでコントロール電圧に応じた信号のレベル制御が行われ、その後マトリクス回路を経てL・R・C・Sの4チャンネルの方向性の強調された信号が出力されます。従って、従来の「ドルビー・サラウンド」がL・R・Sの3チャンネル再生が基本であったものに対し、ドルビー・プロ・ロジック・サラウンドでは、L・R・C・Sの4チャンネル再生が基本となっています。

「方向性強調回路」の優れた点には、まず、各チャンネル間のセパレーションの良さがあげられます。従来のパッシブタイプのデコーダではセパレーションが3dB程度であったものに対し、本機では約26~40dBへと圧倒的に向上しています。このため、音像の前後左右への移動感がよりクリアに、そしてダイナミックに得られるようになりました。

ドルビーサラウンドデコーダ (パッシブ・デコーダ)



ドルビー・プロ・ロジック・サラウンド・デコーダ (アクティブ・デコーダ)



## ■システムに合わせて使えるCENTER MODE スイッチ

ドルビー・プロ・ロジック・サラウンド再生時にはセンタースピーカの役割は重要です。本機は様々なリスニングルームの状況を想定し、リアパネルにCENTER MODEスイッチを設けました。

**ON** : センタースピーカを設置する場合のモードです。比較的小型のスピーカが使用できるように、100 Hz以下のセンターチャンネルの信号成分は左右のメインスピーカへ振り分けられます。

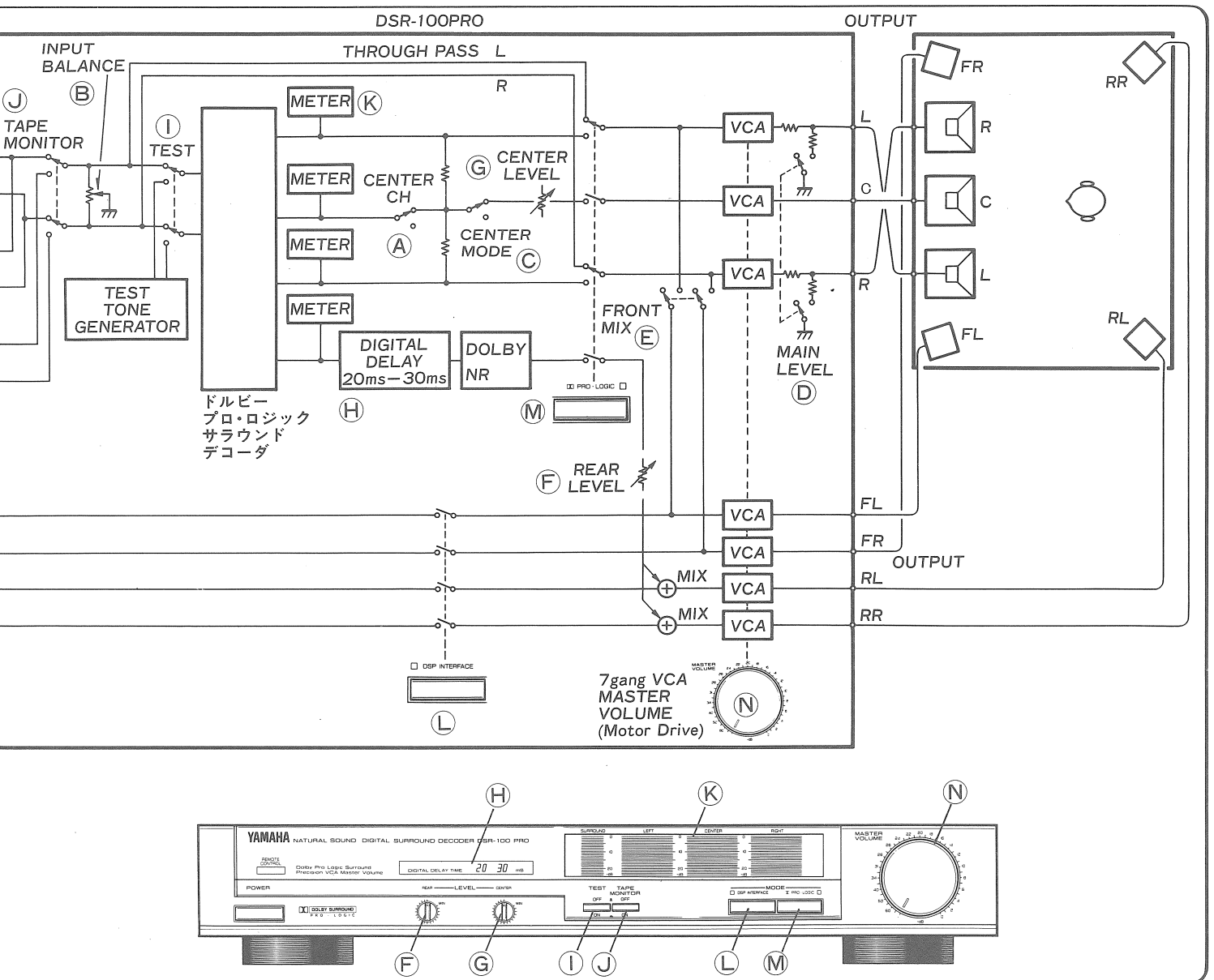
**PHANTOM** : センタースピーカを設置しない場合のモードです。この位置ではセンターチャンネルの信号成分はL、Rのメインスピーカに振り分けられて出力されます。この場合もドルビー・プロ・ロジック・サラウンドを充分お楽しみいただけます。

## ■テストトーンジェネレータ内蔵

ドルビー・プロ・ロジック・サラウンド再生を行うためには、各チャンネル間のバランス調整が重要です。そこで、本機は調整の際に便利なテストトーンジェネレータ(発振器)を内蔵しました。リスニングポジションでテストトーンが各チャンネルとも同じ音量になるように調整すればバランス調整は完了です。

## ■本機+DSPのブロックダイアグラム

本機+DSPのブロックダイアグラムとフロント・リアパネルの各スイッチ・コントロールの関係を示しました。なおフロント・リアパネルの各部の名称とはたらきについては、8、12ページをご参照ください。



# スピーカのレイアウトについて

## スピーカについて

従来の2チャンネルステレオで使用する2台のスピーカ（以下メインスピーカと呼びます）に加えて、ドルビー・プロ・ロジック・サラウンド効果を最大限に発揮させるための、センタースピーカ、そしてリスナーの両サイド（または後方）に設置するサラウンドスピーカの5台のスピーカを使用するのが理想です。

しかしリスニングルームの状況によりセンタースピーカを設置するのが困難な場合は、センタースピーカを使用しない4台のスピーカ構成でも、本機のサラウンド効果を充分にお楽しみいただけます。

- メイン、センター、サラウンドの各スピーカは音質の似たものをお使いください。
- センタースピーカをテレビの近くに設置して使用しますと、テレビの画面が乱れる場合があります。このようなときはテレビとスピーカの距離を離すか、スピーカを防磁タイプのものに取り替えてください。

## スピーカの設置場所について

**メインスピーカ**：従来のステレオ再生と同様に、左右のスピーカをリスニングポジションから等距離に設置します。またテレビを設置しているときは、左右のスピーカとテレビの距離を等しく設置してください。

**センタースピーカ**：テレビを設置している場合は、できるだけテレビ画面に近いところ（例えばテレビの上または下、あるいはテレビの後方）に設置してください。

スムーズな音の移動感と定位感を得るために、メインスピーカの中・高域ユニットの高さにセンタースピーカを合わせることをお勧めします。

**サラウンドスピーカ**：原則的にはリスナーの両サイドの壁にリスナーに向けて平行に設置します。高さは床から1.8 m位が適当です。しかし再生するソースによって、サラウンド効果が異なりますので、試聴を繰り返し、適当な設置場所を選定してください。

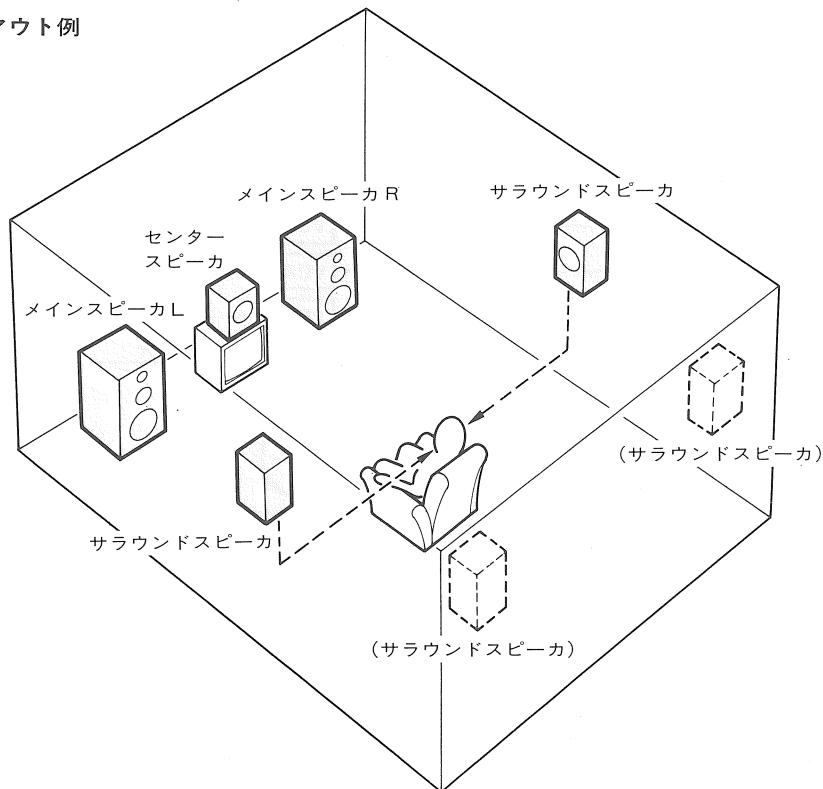
実際の映画館などでは、サラウンドスピーカはたくさんの数が設置され、観客がどの座席に座っても等しくサラウンド感が得られるように配慮されています。リスニングルームにおいても、サラウンドスピーカはリスナーを取り囲むように、偶数個設置するのも効果的です。

サラウンドスピーカを駆動するパワーアンプにスピーカA/B端子がある場合には、アンプのスピーカスイッチをA+Bの位置にして、偶数個のスピーカをご使用になるのも、ひとつの方法です。

- その際は、スピーカの合成インピーダンスに充分にご注意ください。

■ヤマハのDSPとシステムアップする場合は17ページを参照ください。

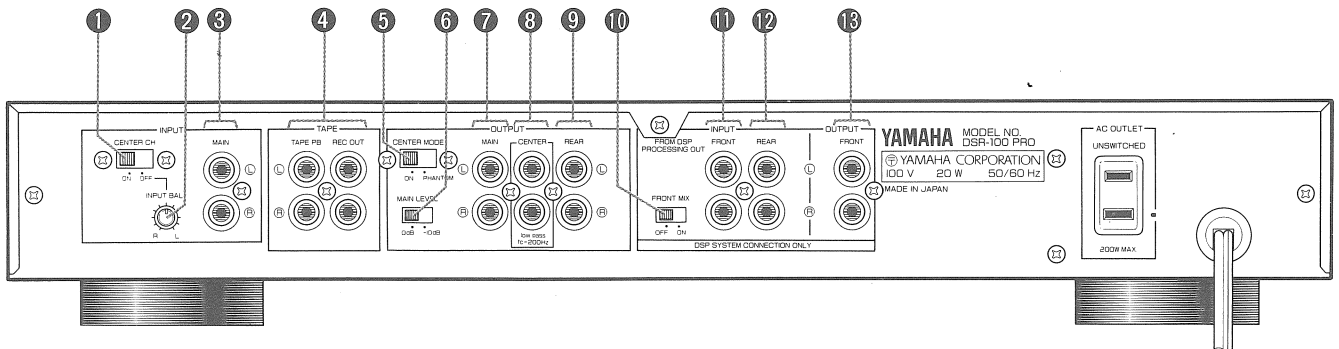
スピーカのレイアウト例





# 接続のしかた

## リアパネル各部の名称とはたらき



### インプット INPUT

#### ① CENTER CH スイッチ

通常は“ON”の位置にします。②のインプットバランス調整を行うときのみ“OFF”の位置にします。

#### ② INPUT BAL コントロール

①のCENTER CHスイッチを“OFF”にし、このインプットバランスを調整して、会話の部分（モノラルになる部分）で左右のスピーカからの音が一番小さくなるように合わせます。

#### ③ MAIN 端子

アナログ音声信号を入力する端子です。

### テープ TAPE

#### ④ TAPE PB, REC OUT 端子

テープデッキなどの機器を接続する端子です。

### アウトプット OUTPUT

#### ⑤ CENTER MODE スイッチ

センタースピーカを設置するときは“ON”の位置にします。センタースピーカを設置しないときは“PHANTOM”の位置にします。

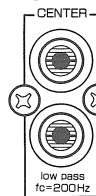
#### ⑥ MAIN LEVEL スイッチ

MAINの出力端子から出力される音量レベルを切り換えるスイッチです。

#### ⑦ MAIN 端子

メインスピーカを駆動するアンプへ信号を出力する端子です。

#### ⑧ CENTER 端子



センタースピーカを駆動するアンプへ信号を出力する端子です。(モノラル)

200Hz以下の低域信号のみ出力する端子です。(モノラル)重低音を補う場合など、スーパーウーファ用の出力端子として使用することができます。

#### ⑨ REAR 端子

サラウンドスピーカを駆動するアンプへ信号を出力する端子です。

### DSP SYSTEM CONNECTION ONLY

●以下の端子はヤマハのDSP（デジタル・サウンド・フィールド・プロセッサ）とシステムアップする場合にのみ使用します。詳細は17ページを参照ください。

### インプット INPUT

#### ⑩ FRONT MIX スイッチ

メインの信号にDSPのフロント・エフェクト信号をミックスするスイッチです。

#### ⑪ FRONT 端子

DSPのPROCESSING OUTのFRONT端子と接続します。

#### ⑫ REAR 端子

DSPのPROCESSING OUTのREAR端子と接続します。

### アウトプット OUTPUT

#### ⑬ FRONT 端子

フロントのエフェクトスピーカを駆動するアンプへ信号を出力する端子です。

## 接続のしかた

### 接続のしかた

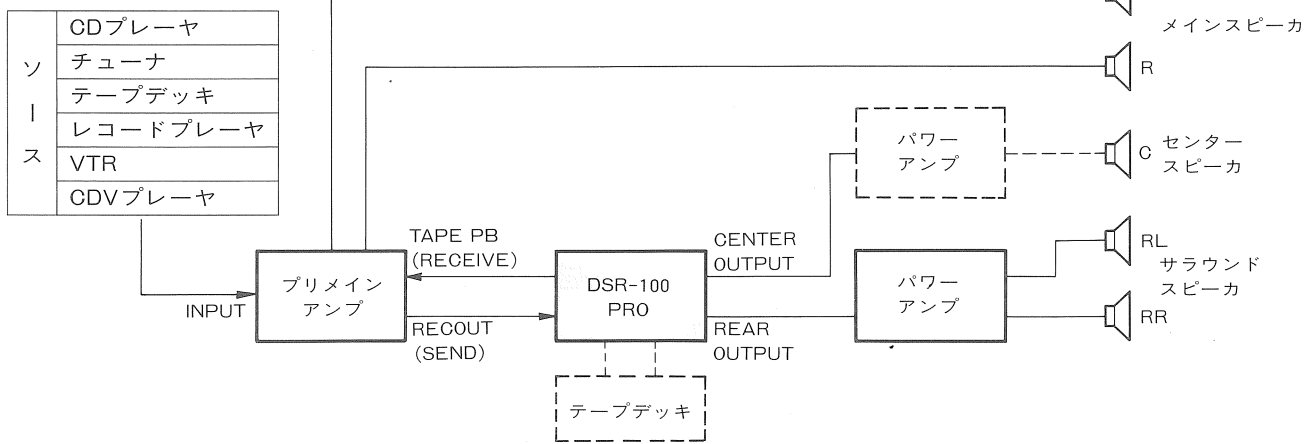
#### 接続の際のご注意

- 電源スイッチ……本機および各機器の電源を切ってから接続してください。
- 電源プラグ……接続に誤りがないことを確認してから、電源コンセントに差し込んでください。
- 接続コード……各機器のL(左チャンネル)・R(右チャンネル)を確認して、正しく確実に接続してください。
- 設置……本機が他の機器(チューナなど)に妨害を与えるようなときは、本機と他のセットとの距離を少し離して設置してください。

プリメインアンプのテープ端子(TAPE PB/REC OUT)、またはアクセサリ端子\*(SEND/RECEIVE\*)に本機を接続します。

\*アクセサリ(Accessory)端子はヤマハの一部のアンプに装備されている端子です。

#### ●信号経路



①本機のINPUT MAIN端子とプリメインアンプのテープ端子(REC OUT)、またはアクセサリ端子(SEND)を接続します。

- テープ端子に空きがない場合は、テープデッキをプリメインアンプから外し、本機のTAPE端子に接続してください。(詳細は11ページを参照ください)

②本機のOUTPUT MAIN端子とプリメインアンプのテープ端子(TAPE PB)、またはアクセサリ端子(RECEIVE)を接続します。

③本機のOUTPUT CENTER端子の上側の端子とセンタースピーカを駆動するパワーアンプの入力端子(INPUT)を接続します。

- センタースピーカを設置しない場合は、この接続は必要ありません。

④本機のCENTER MODEスイッチを切り換えます。

- センタースピーカを使用する場合は“ON”の位置にします。
  - センタースピーカを使用しない場合は“PHANTOM”の位置にします。
- “PHANTOM”の位置にしますと、デコードされたセンターチャンネル成分は、左右のメインスピーカに振り分けられて出力されます。

⑤本機のOUTPUT REAR端子とサラウンドスピーカを駆動するパワーアンプの入力端子(INPUT)を接続します。

⑥本機の電源プラグをAC100Vの家庭用電源コンセントまたはアンプの電源コンセントに接続します。

本機の消費電力は20Wですが、本機のACアウトレット(200W以下)に、他の機器を接続した場合は、その機器の消費電力と本機の20Wとの合計が、本機の消費電力となります。接続するコンセントの供給電力を確認の上、必ず指定範囲内で使用してください。

■テープ端子に本機を接続したときのみ、アンプを下記のように操作してください。

(SEND, RECEIVE端子を使って接続した場合は、下記の操作は必要ありません)。

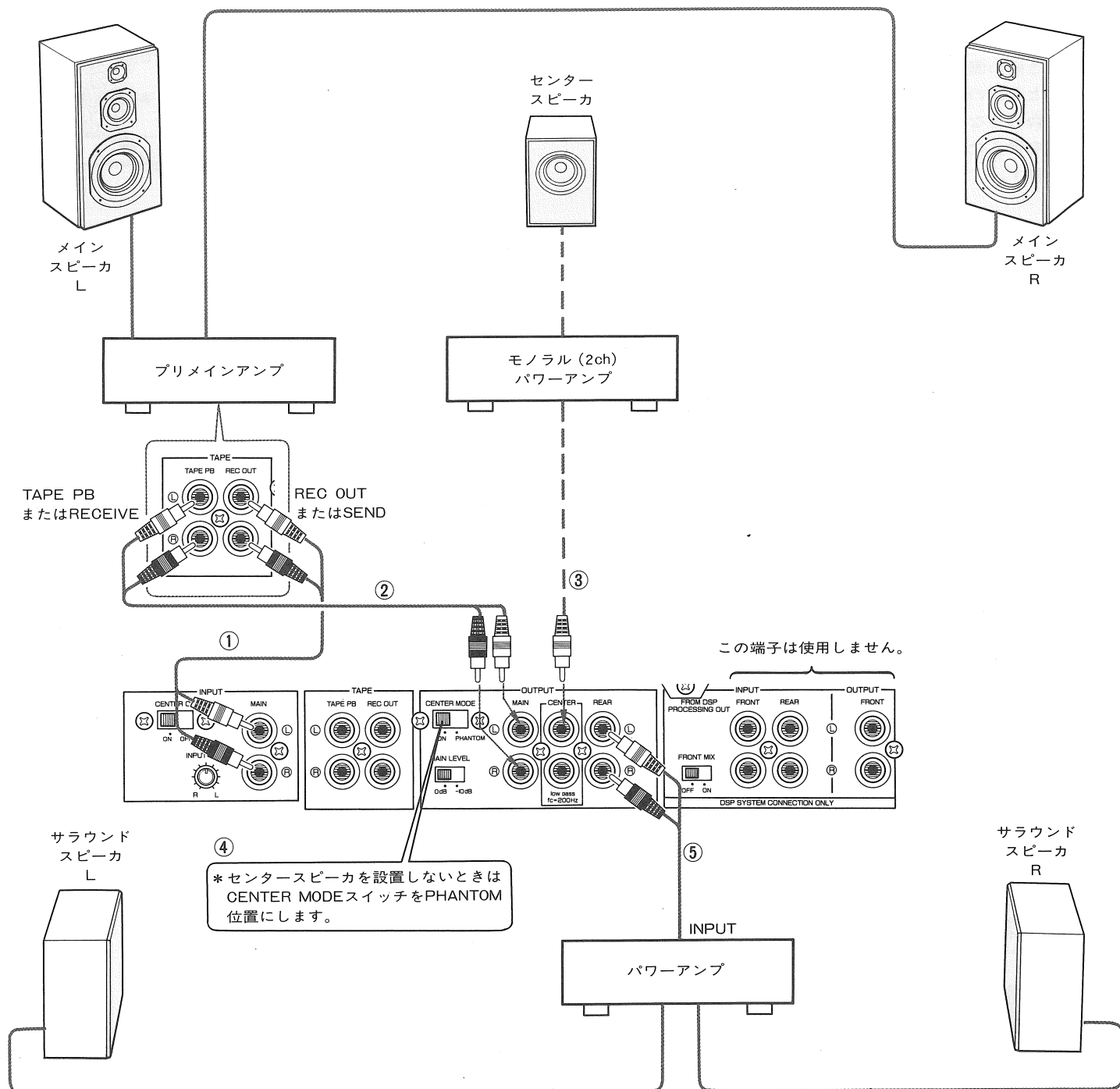
●REC OUTセクタのあるアンプの場合

- 1 アンプのインプットセクタを“TAPE”にします。
- 2 本機への入力ソースはアンプのREC OUTセクタで選びます。

●TAPE MONITORスイッチのあるアンプの場合

- 1 TAPE MONITORスイッチを“ON”にします。
- 2 本機への入力ソースはアンプのINPUTセクタで選びます。

\*アンプの操作のしかたの詳細はアンプの取扱説明書をご参照ください。



●お手持ちのシステムにより端子名などが異なります。接続の際はアンプの取扱説明書もご参照ください。

# 接続のしかた

## その他の接続

### ■電源コードの接続

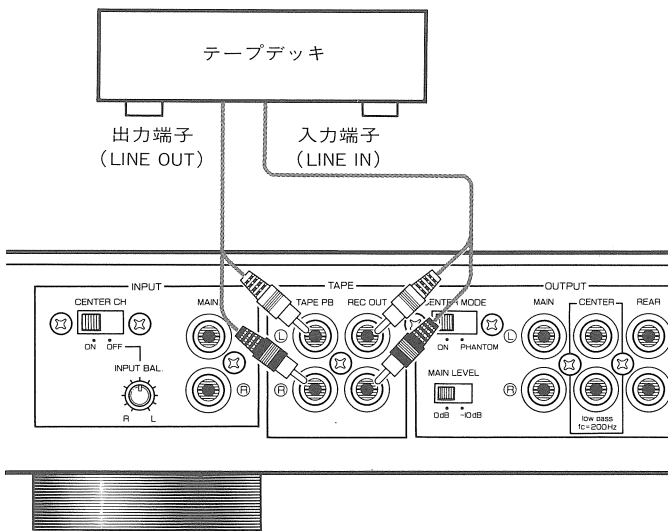
すべての接続に誤りのないことを確認してから、本機の電源コードを、家庭用ACコンセントか、アンプのACアウトレットに接続してください。

- 本機の電源プラグに記されている“—”は、電源トランスの巻き始め側を示しています。このマークは、接続する各機器と電源の極性を合わせるためのものです。極性を合わせなくても使用上は影響ありませんが、より良い音質を得るためには、極性を合わせておかれることをお勧めします。

### ■テープデッキの接続

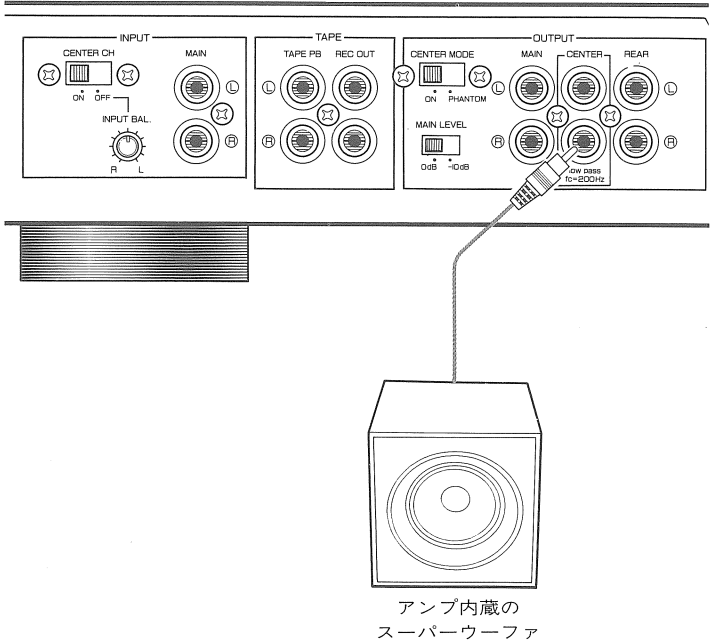
本機にテープデッキを接続しますと、そのデッキをソースとした再生ができます。また本機の入力ソースを録音することができます。ただし、サラウンド・デコードされた音を録音することはできません。

- 1 本機の TAPE PB 端子とテープデッキの出力端子 (LINE OUT) を接続します。
- 2 本機の REC OUT 端子とテープデッキの入力端子 (LINE IN) を接続します。



### ■スーパーウーファの接続

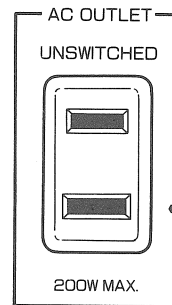
CENTER端子の下側の端子にアンプ内蔵のスーパーウーファなどを接続しますと、重低音を補った再生をすることができます。



### ■ACアウトレットの接続

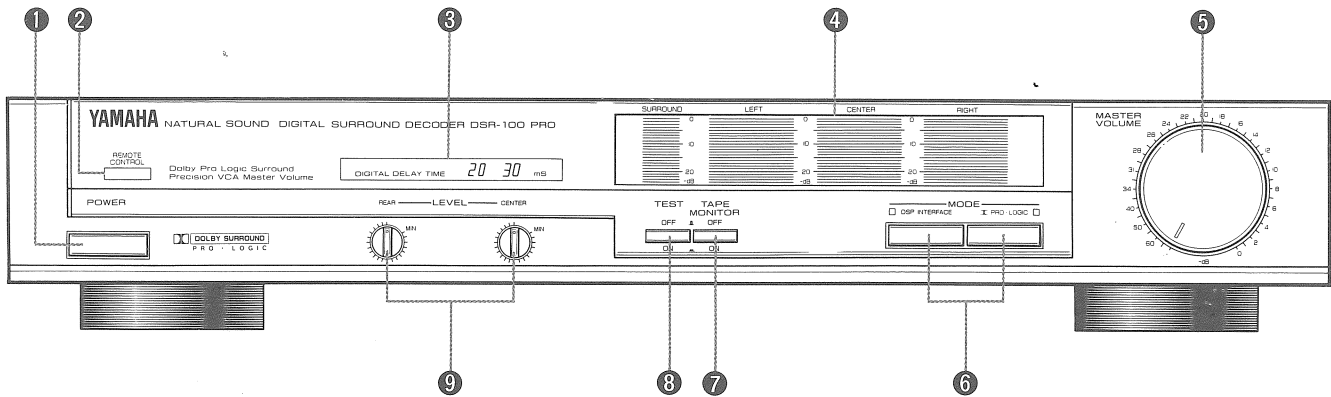
他のAV機器に電源を供給するコンセントです。本機のPOWERスイッチのON/OFFには関係なく、本機の消費電力20Wと合計して最大200Wまで供給することができます。

- 本機のACアウトレットに記されている“—”は、電源トランスの巻き始め側を示しています。このマークは、接続する各機器と電源の極性を合わせるためのものです。極性を合わせなくても使用上は影響ありませんが、より良い音質を得るためには、極性を合わせておかれることをお勧めします。



# 再生のまえに

## フロントパネルの各部の名称とはたらき



### ① POWERスイッチ

本機の電源をON, OFFするスイッチです。

### ② REMOTE CONTROL受光窓

リモコンからのコントロール信号を受光する窓です。

### ③ DIGITAL DELAY TIMEインジケータ

リモコンで選択したディレイタイムを表示します。

### ④ レベルメーター

サラウンド、メイン(左右チャンネル)およびセンターの出力レベルを表示します。

- このレベルメーターはTESTスイッチが“ON”のときおよびドルビー・プロ・ロジック・サラウンド再生時に点灯します。

### ⑤ MASTER VOLUMEコントロール

各スピーカの音量を同時に調整します。

### ⑥ MODEスイッチ

PRO・LOGIC : ドルビー・プロ・ロジック・サラウンド再生をするときは、このスイッチを押してインジケータを点灯させます。(ONの状態)

DSP INTERFACE : 接続したDSPシステムを使った再生をするときは、このスイッチを押してインジケータを点灯させます。(ONの状態)

- 通常のステレオ再生をするときは、両方のスイッチを押してインジケータを消灯させます。(OFFの状態)
- DSPとドルビー・プロ・ロジック・サラウンド再生を同時に行うときは、両方のスイッチを押し、インジケータを点灯させます。(DSPシステムを組む場合は17ページをご参照ください)

### ⑦ TAPE MONITORスイッチ

本機に接続したテープデッキを再生するときに、“ON”にします。

- 本機に接続したテープデッキを再生するとき以外は、必ず“OFF”の位置にしておいてください。

### ⑧ TESTスイッチ

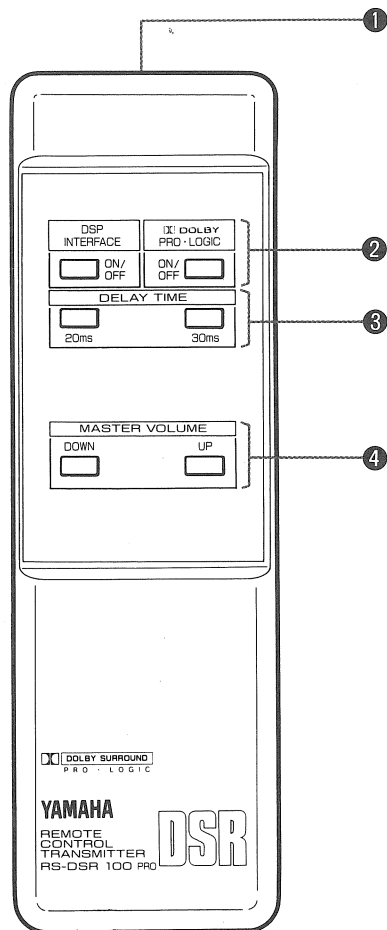
テスト信号を“ON/OFF”するスイッチです。テスト信号は接続した各スピーカの音量バランスをチェックするときに使用します。

### ⑨ LEVELコントロール

CENTER : センタースピーカの音量レベルを調整します。  
REAR : サラウンドスピーカの音量レベルを調整します。

- \*CENTER MODEスイッチが“PHANTOM”位置のときは、センターレベルを調整することはできません。

リモコンユニットについて



①送信窓

コントロール信号を送信する窓です。リモコンで操作をするときは、この窓を本体の受光窓に向けてからキーを押してください。

②モードキー

**DSP** : 本体のDSP INTERFACE キーと同じ働きをします。本機に接続したDSPを再生をするときに押します。

**DOLBY PRO-LOGIC** : 本体 **PRO-LOGIC** キーと同じ働きをします。本機をドルビー・プロ・ロジック・サラウンド再生するときに押します。

● DSP再生とドルビー・プロ・ロジック再生を同時に行う場合は両方のキーを押します。

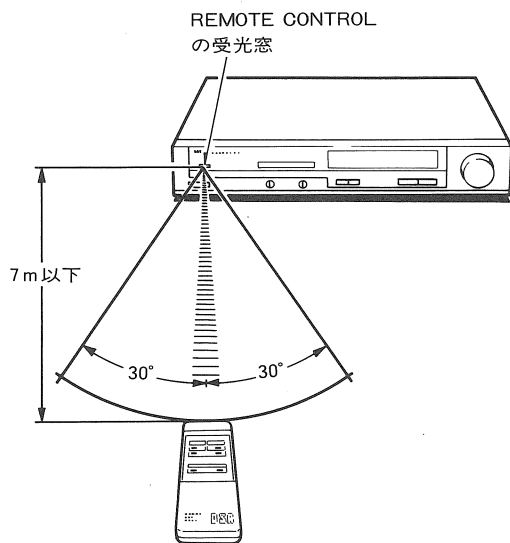
③DELAY TIMEキー

ディレイタイムを選択するキーです。リスニングルームの状況や再生するソースの種類に合わせて、臨場感や音の移動感を調整することができます。

④MASTER VOLUMEキー

本体のMASTER VOLUMEをコントロールするキーです。UPのキーを押しますと音量が上がり、DOWNのキーを押しますと音量が下がります。

リモコン操作可能範囲



付属のリモコンは…

本機専用です。近くに他の機器が設置されていると、誤動作をおこすことがあります。リモコン操作によって誤動作する機器があるときは、その機器のリモコン受光部をふさぐか、設置場所を変えてください。

ていねいに扱ってください。

お茶や水をこぼしたり、強くたたいたり、落としたりしないでください。ストーブのそばや風呂場など、温度・湿度の高い所にも置かないようご注意ください。

リモコン受光窓に、直射日光や照明器具などの強い光が当たらないようご注意ください。

強い光が当たっていると、リモコンが動作しなかったり、働きにくくなります。

## 再生の準備

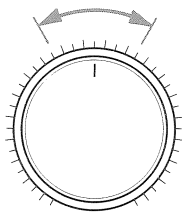
メインの音とサラウンドの音、そしてセンターの音のバランスがとれていないと良いサラウンド効果は得られません。下記の手順に従って各スピーカの音量バランスを調整してください。

### 1. 電源の投入

- ① 本機およびご使用になる機器すべての電源を“ON”にします。
- ② 万一の事故を防ぐため、本機を含めすべてのボリュームを低めにセットします。

### 2. プリメインアンプのボリューム設定

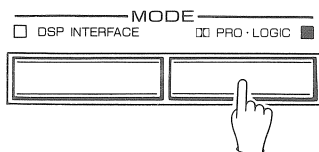
- ① 接続しているアンプを操作してソースを本機に入力します。
- ② ソースを再生しながら、アンプのボリュームを-16dB ~ -20dBにセットします。
  - ボリュームに目盛りの表示がない場合は、11時~1時付近にセットします。



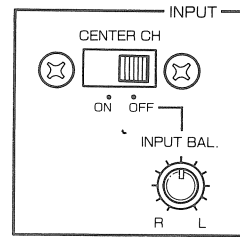
### 3. 入力バランスの調整

ドルビー・プロ・ロジック・デコーダの性能をフルにいかし、効果的なサラウンド再生を行うために、L, Rの入力バランス調整を行います。

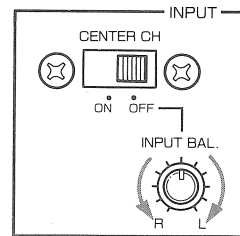
- ①   PRO・LOGICスイッチを押して“ON”にします。スイッチのインジケータが点灯します。



- ② 本機のリアパネルにあるCENTER CHスイッチを“OFF”の位置にします。



- ③ モノラルソース(例えばAM放送など)を再生します。
- ④ 本機のMASTER VOLUMEを右に回し、左右のメインスピーカから出る音が最小になるようにINPUT BAL.コントロールを回して調整します。

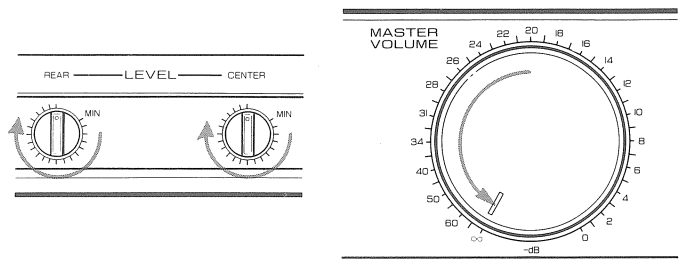


- ⑤ 調整が終わりましたら、本機のリアパネルにあるCENTER CHスイッチを“ON”の位置に戻します。

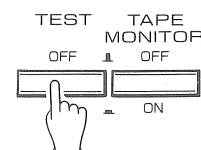
### 4. 各スピーカの音量バランスの調整

本機内蔵の発振機からのテストトーンを使い、メイン、センター、サラウンドの各スピーカの音量バランスを調整します。

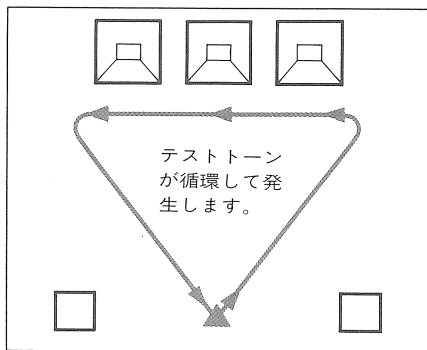
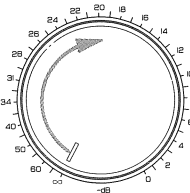
- 調整の前に  
 MASTER VOLUME……………最小  
 LEVEL (CENTER, REAR) ……最大 (中央)  
 の位置にセットしておきます。



- ① TESTスイッチを押します。

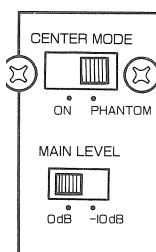


- ② 本機のMASTER VOLUME を右に回しますと、テストトーンが右側のメインスピーカ→センタースピーカ→左側のメインスピーカ→サラウンドスピーカの順番に、約2秒間ずつ発生します。



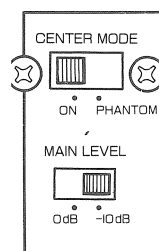
\* サラウンド(リア)スピーカのテストトーンは左右のスピーカから同時に発生します。

- センタースピーカを設置していない場合は、リアパネルのCENTER MODE スイッチを“PHANTOM”の位置にして調整ください。センタースピーカ用のテストトーンは左右のメインスピーカにふり分けられて出力されます。



- ③ テストトーンを聞きながら、リスニングポジションにおいてすべてのスピーカからの音量が同じになるように、各スピーカを駆動している各アンプのボリュームを調整します。

- センタースピーカからの音量レベルは本機のCENTER LEVELコントロールで微調整することができます。
  - サラウンドスピーカからの音量レベルは本機の REAR LEVELコントロールで微調整することができます。
  - サラウンド側の音量を最大にしても、メインスピーカとバランスが取れないときは……
    - プリメインアンプのボリュームを、バランスが取れる位置まで下げてください。
- \* リアパネルの MAIN LEVEL スイッチを“-10dB”の位置にしますとメインスピーカの音量レベルを約1/3に下げることができます。



- ④ 調整が終わりましたらTESTスイッチを押して、テストトーンの発生を止めます。

これで再生の準備は完了しました。これからの音量調整は必ず本機のMASTERVOLUMEで行います。接続している機器のボリュームはバランスのとれた状態にセットされていますので、動かさないでください。



# 再生のしかた

## ドルビー・プロ・ロジック・サラウンド再生

- 1 接続した各機器の電源を入れます。
- 2   PRO・LOGICスイッチを押します。  
スイッチ上のインジケータが点灯します。
- 3 プリメインアンプ、リアンプを操作して、本機にソースを入力します。
  - 本機のリアパネルに接続したテープデッキを再生するときにはTAPE MONITORスイッチを押して“ON”にします。
- 4 MASTER VOLUMEで音量を調整します。
- 5 必要に応じてリモコンのDELAYキーを使ってディレイタイムを選択してください。
- 6 再生するソースによりセンターおよびエフェクトの音量を変えたいときは、CENTERおよびREARのLEVELコントロールで調整することができます。

ドルビー・プロ・ロジック・サラウンドはモノラルのソースには対応しません。モノラルソース再生時にはサラウンドスピーカから音は出ません。

## 通常のスtereo再生

- PRO・LOGICスイッチをOFFにしますと、通常のスtereo再生をすることができます。
- スtereo再生時にも本機の電源は必ず入れてください。

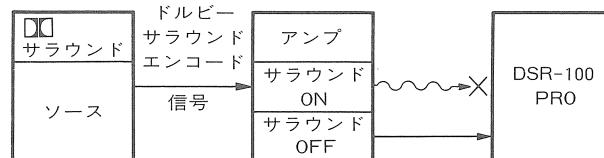
## 録音のしかた

本機のREC OUT端子には常時入力信号が出力されていますので、接続したテープデッキを録音状態にしますと本機への入力信号を録音することができます。  
ただし、ドルビー・プロ・ロジック・サラウンドの効果を付加された信号を録音することはできません。

## サラウンド機能内蔵のアンプをご使用の場合のご注意

(ヤマハAVC-50/30, SR-50, SR-100X, AVX-100などのアンプをご使用の場合)

本機のドルビー・プロ・ロジック・デコーダを正しく動作させるためには、エンコードされた信号(ソース信号)を、そのまま本機に入力させる必要があります。



本機へのメイン入力信号が、途中でアンプ内蔵のサラウンド機能により処理が行われていますと、ドルビー・プロ・ロジック・サラウンド・デコーダは正しく動作できなくなります。

従って、本機でドルビー・プロ・ロジック・サラウンド再生を行う場合は、基本的に他のサラウンド機能と同時にお使いにならないように、ご注意ください。

- アンプのサラウンド機能がメイン出力信号を加工しないタイプでしたら本機との併用は可能です。
- DSPとシステムを組む場合は、17ページをご参照ください。

### 例) AVX-100の場合

AVX-100は8タイプのサラウンド・モードを内蔵していますが、

- 2 Natural Sur.2
- 3 Hall Sur
- 5 Simulated Stereo
- 7 Live Sur

は、メイン出力信号を加工するタイプですので、これらのサラウンドをお楽しみになる場合は、本機の  PRO・LOGICスイッチをOFFにしてください。

また、“4ドルビー・サラウンド”との併用も、その効果を損ねますので、いずれか一方を選択してお楽しみください。

# DSPとシステムを組むには



本機の搭載したドルビー・プロ・ロジック・デコーダは、劇場の空間を想定したうえで、本来の効果が発揮されるように設計されたデコーダです。プロ・ロジックそのものは、ソースに入力された信号を忠実に再現する回路であり、劇場用ドルビー・ステレオ・システムの再現性において、最も正当かつ忠実な方式です。しかし、本機の使用される通常のリビングルームと劇場とは、条件的に、その空間特性に著しい相違があることは否めません。

そこで、劇場からコンサートホールに至るまでの自在な音場設定と、モノラルソースから音楽ソフトまで幅広く対応する、ヤマハ・オムニサウンドDSPと、音像の定位と移動感に優れた本機をシステムで構成しますと、ドルビー・プロ・ロジック・サラウンド再生時に、DSPで自由に音場を付加することができ、ソースのイメージに合ったサラウンド効果を演出することが可能になります。

DSR-100PROとDSPの組み合わせは、臨場感の再現にポイントを置いた、よりグレードの高いHiFi-AVシステムとなります。

●ドルビー・プロ・ロジック・サラウンド再生時におけるDSPの音場プログラムの選択の目安を下記に示しました。参考にしてください。

目的	プログラム
劇場空間の再現	ホール系プログラム
画面との一体感	ポップス系プログラム
サラウンド効果をいかす	サラウンド、ムービーシアター系プログラム

●他のプログラムを選択しても、響き、拡がり感が補足された、サラウンド効果を楽しむことができます。ソースに合ったプログラムを選択してください。

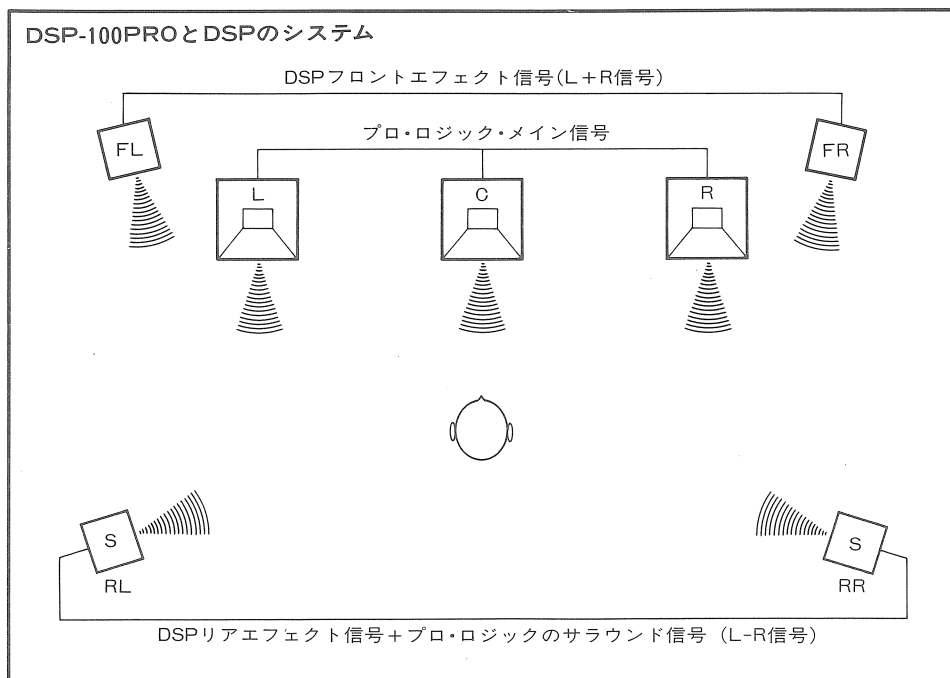
## スピーカについて

基本的にはDSR-100PROのスピーカシステムに、DSPのフロント・エフェクトスピーカが加わった7ch構成となりますが、本機のFRONT MIXスイッチを使用しますと5チャンネルでも構成することができます。

また、本機のCENTER MODEスイッチを“PHANTOM”にして4チャンネル構成することも可能です。

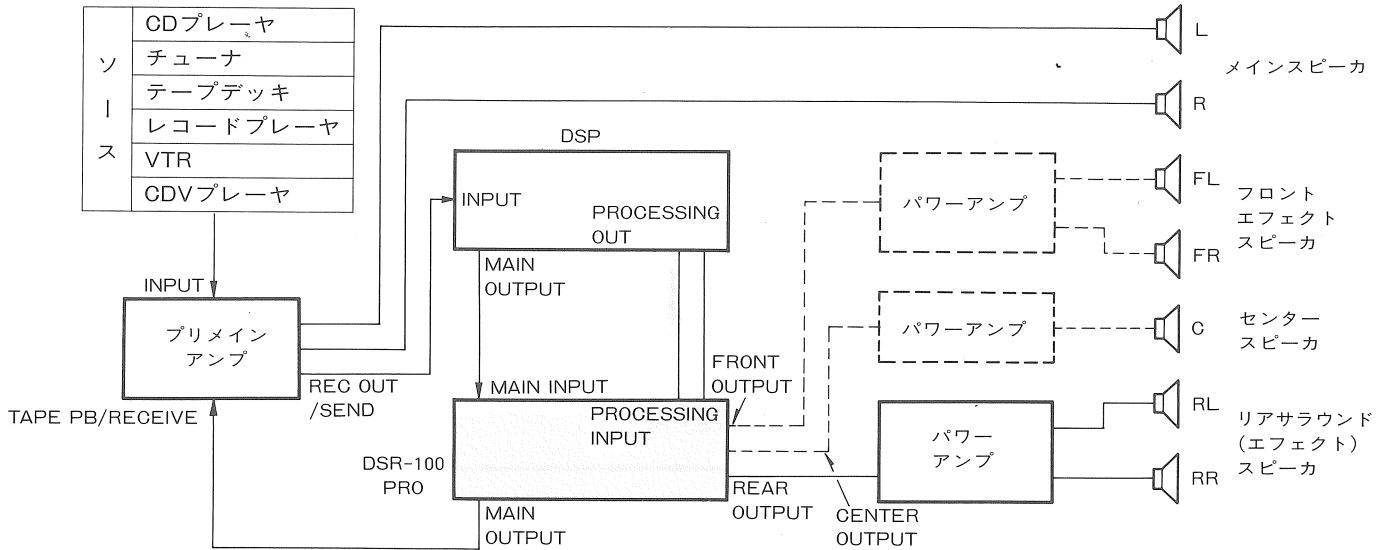
### ■DSPとシステムを組んだときの各スピーカの役割

スピーカ	再生する信号
フロントエフェクトスピーカ (FL/FR)	DSPのフロントエフェクト(プレゼンス)信号を再生します。
メインスピーカ (L/R)	メイン信号を再生します。 (5ch構成時はフロントエフェクト信号をミックスして再生。4ch構成時はフロントエフェクト信号およびセンターチャンネル信号をミックスして再生)
センタースピーカ (C)	センター信号を再生します。
リアサラウンドスピーカ (RL/RR)	ドルビー・プロ・ロジック・サラウンドのサラウンド信号およびDSPのリアエフェクト信号をミックスして再生します。



接続のしかた

●DSR100PRO+DSPの信号経路



- ①プリメインアンプのREC OUT 端子またはSEND 端子と、DSPのINPUT 端子を接続します。  
●すでにDSPをご使用の場合は、アンプとDSPの入力関係の接続変更はありません。
- ②DSPのOUTPUT MAIN端子と本機のINPUT MAIN 端子を接続します。
- ③DSPのPROCESSING FRONT OUTPUT 端子と本機のPROCESSING FRONT INPUT 端子を接続します。  
●すでにDSPのフロントエフェクトスピーカを設置せずにご使用の場合も、この接続を行ってください。またDSPのリアパネルにあるFRONT MIXスイッチは必ず“6ch”の位置に変更してください。次に、本機のFRONT MIXスイッチを“ON”の位置にします。  
●フロントエフェクトスピーカを設置してご使用になる場合は、本機のFRONT MIXスイッチを“OFF”の位置にします。
- ④DSPのPROCESSING REAR OUTPUT端子と本機のPROCESSING REAR INPUT 端子を接続します。

- ⑤本機のPROCESSING FRONT OUTPUT 端子とフロントエフェクトスピーカを駆動するパワーアンプの入力端子 (INPUT) を接続します。  
●フロントエフェクトスピーカを設置しない場合は、この接続は必要ありません。
- ⑥本機のOUTPUT MAIN 端子とプリメインアンプのTAPE PBまたはRECEIVE 端子を接続します。
- ⑦本機のOUTPUT CENTER 端子の上側の端子とセンタースピーカを駆動するパワーアンプの入力端子 (INPUT) を接続します。  
●センタースピーカを設置しないときは、本機のCENTER MODEスイッチを“PHANTOM”の位置にします。
- ⑧本機のOUTPUT REAR 端子とリアサラウンドスピーカを駆動するパワーアンプの入力端子 (INPUT) を接続します。

DSPのその他の端子の接続は変更ありません。詳細はDSPの取扱説明書をご参照ください。

■テープデッキの接続

TAPE 端子にテープデッキを接続しますと、そのデッキをソースとしたサラウンド再生ができます。また本機の入力ソースを録音することができます。ただし、サラウンド・デコードされた音を録音することはできません。

■スーパーウーファの接続

CENTER 端子の下側の端子にアンプ内蔵のスーパーウーファなどを接続しますと、重低音を補った再生をすることができます。

# DSPとシステムを組むには

■テープ端子に接続したときのみ、アンプを下記のように操作してください。

(SEND, RECEIVE端子を使って接続した場合は、下記の操作は必要ありません)。

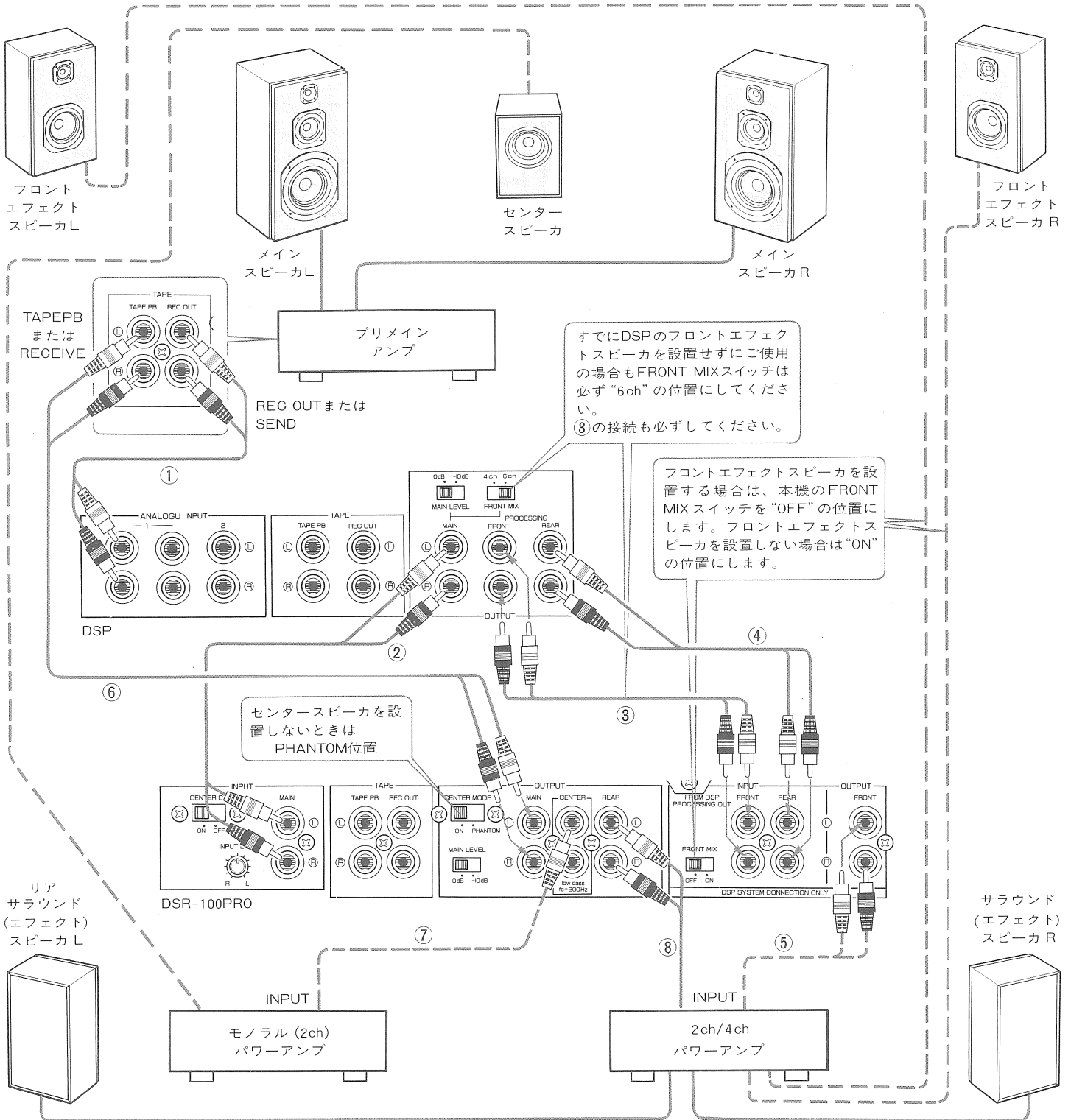
●REC OUTセレクトのあるアンプの場合

- 1 アンプのインプットセクタを“TAPE”にします。
- 2 入力ソースはアンプのREC OUTセクタで選びます。

●TAPE MONITORスイッチのあるアンプの場合

- 1 TAPE MONITORスイッチを“ON”にします。
- 2 入力ソースはアンプのINPUTセクタで選びます。

\*アンプの操作のしかたの詳細はアンプの取扱説明書をご参照ください。



## 再生の準備

### 入カバランスの調整

- 1 本機およびご使用になるすべての機器の電源を“ON”にします。
- 2 万一の事故を防ぐため、本機をふくめたすべての機器のボリュームを低めにセットします。
  - DSPにボリュームがある場合には、最大（右に回し切った状態）にします。
- 3 接続しているアンプを操作してソースを本機に入力します。
- 4 ソースを再生しながら、アンプのボリュームを-16dB~-20dB付近にセットします。
  - ボリュームに目盛りが無い場合は、11時~1時付近にセットします。
- 5  PRO・LOGICスイッチを押して、インジケータを点灯させます。
- 6 本機リアパネルのCENTER CHスイッチを“OFF”の位置にします。
- 7 接続しているアンプを操作して、モノラルソース（例えばAM放送など）を再生します。
- 8 本機のMASTER VOLUMEを右に回し、左右のメインスピーカから出る音が最小になるように、INPUT BALコントロールを回して調整します。
- 9 調整が終わりましたら、CENTER CHスイッチを“ON”の位置に戻します。

### スピーカの音量バランス調整

本機に内蔵の発振機からのテストトーンを使い、メイン、センター、サラウンドの各スピーカの音量バランスを調整します。

- 1 本機のMASTER VOLUMEを最小位置(左に回し切った状態)、およびCENTER、REARのLEVELコントロールを最大(中央の位置)にセットします。
- 2 TESTスイッチを押します。
- 3 本機のMASTER VOLUMEを右に回しますと、テストトーンが右側のメインスピーカ→センタースピーカ→左側のメインスピーカ→サラウンドスピーカの順番に約2秒ずつ発生します。
- 4 テストトーンを聞きながら、リスニングポジションにおいてすべてのスピーカからの音量が同じになるように、各スピーカを駆動しているアンプのボリュームを調整します。
  - センタースピーカからの音量はCENTER LEVELコントロールで微調整することができます。
  - サラウンドスピーカからの音量はREAR LEVELコントロールで微調整することができます。
  - サラウンド側の音量を最大にしても、メインスピーカの音量とバランスがとれない場合は……。
    - プリメインアンプのボリュームをバランスは取れる位置まで下げてください。

\*リアパネルのMAIN LEVELスイッチを“-10dB”の位置にしますとメインスピーカの音量を約1/3に下げることができます。

- 5 調整が終わりましたらTESTスイッチを押して、テストトーンの発生を止めます。

これで調整は完了です。DSP側の調整が必要なときは、下記の手順で行ってください。

- 1  PRO・LOGICスイッチを押して“OFF”(インジケータが消灯)にし、DSP INTERFACEスイッチを押し、インジケータを点灯させます。
- 2 この状態でDSP側の調整を行います。
  - フロントエフェクトスピーカとメインスピーカの音量バランスはDSP側で調整することができます。
  - 調整の詳細はDSPの取扱説明書をご参照ください。
- 3 システム全体の音量バランスを調整します。センタースピーカ（センターチャンネル）の音量と、リアエフェクトスピーカの音量はREAR LEVELコントロールおよびCENTER LEVELコントロールで調整することができます。

#### すでにDSPをご使用の場合

各スピーカ間の音量バランスはとれています。新しく設置されたセンタースピーカ（センターチャンネル）の音量と、新しくDSPのエフェクト音が加味されるリアエフェクト音と全体のバランスは、本機のREAR LEVELコントロールおよびCENTER LEVELコントロールでとるようにしてください。

(ボリュームのあるDSPをご使用の場合はDSP側のボリュームは最大位置にセットし、全システムの音量は本機のMASTER VOLUMEで行ってください)

## 再生のしかた

- 1 接続した各機器の電源を入れます。
- 2 本機にソースを入力します。
- 3 本機のMODEスイッチで再生モードを選択します。

- DSP INTERFACEスイッチと  PRO・LOGICスイッチについて

DSP	<input type="checkbox"/> PRO・LOGIC	再生モード
ON	OFF	DSPモードで再生
OFF	ON	プロ・ロジック・サラウンド再生
ON	ON	DSPとプロ・ロジック・サラウンド再生
OFF	OFF	通常ステレオ再生

\*各スイッチのインジケータが点灯している状態がONです。

- DSPを使用しない再生の場合にも必ずDSPの電源は入れてください。



# ヤマハホットラインサービスネットワーク



ヤマハ ホットライン サービス ネットワークは、本機を末長く、安心してご愛用頂けるためのものです。サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

## ●保証期間

お買い上げ日より1年間です。

## ●保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

## ●保証期間経過後の修理

修理によって製品の機能が維持できる場合には、お客様のご要望により有料にて修理いたします。

## ●補修用性能部品の最低保有期間

補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後8年（テープデッキは6年）です。この期間は通商産業省の指導によるものです。

補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

## ●持ち込み修理のお願い

故障の場合、お買い上げ店、または最寄りのYAMAHA電気音響製品サービス拠点へお持ちください。

（右欄サービス拠点の所在地と電話番号をご参照ください。）

## ●製品の状態は詳しく

サービスをご依頼なさるときは、製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品名、製造番号などもあわせてお知らせください。※品名、製造番号は本機背面パネルに表示してあります。

## ■YAMAHA電気音響製品サービス拠点

（電気音響製品の修理受付および修理品お預かり窓口）

- 北海道 〒064 札幌市中央区南10条西1-4 ヤマハセンター内  
TEL (011)513-5036
- 仙台 〒983 仙台市卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F  
TEL (022)236-0249
- 東京 〒211 川崎市中原区木月1184  
TEL (044)434-3100
- 新潟 〒950 新潟市万代1-4-8 シルバーポールビル2F  
TEL (025)243-4321
- 浜松 〒435 浜松市上西町911番地 ヤマハ宮竹工場内  
TEL (0534)65-6711
- 名古屋 〒454 名古屋市中川区玉川町2-1-2  
ヤマハ名古屋流通センター3F TEL (052)652-2230
- 大阪 〒565 吹田市新芦屋下1-16 千里丘センター内  
TEL (06)877-5262
- 四国 〒760 高松市丸亀町8-7 ヤマハ高松店内  
TEL (0878)22-3045
- 広島 〒731-01 広島市安佐南区西原2丁目27-39  
TEL (082)874-3787
- 九州 〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4  
TEL (092)472-2134

## ■お客様ご相談窓口

- 北海道 〒064 札幌市中央区南10条西1-4 ヤマハセンター内  
北海道営業所 TEL (011)512-6115
- 仙台 〒980 仙台市大町2-2-10 住友生命仙台青葉台通ビル4F  
東北営業所 TEL (022)223-3101
- 東京 〒101 東京都千代田区神田駿河台3-4 龍名館ビル4F  
特販営業所 TEL (03)255-1825  
首都圏第一営業所 TEL (03)255-5691  
首都圏第二営業所 TEL (03)255-5691  
神田営業所 TEL (03)255-6767  
販売二課 TEL (03)255-2302
- 新潟 〒950 新潟市万代1-4-8 シルバーポールビル  
北関東営業所 TEL (025)241-2084
- 千葉 〒260 千葉市千葉港2-1 千葉コミュニティセンター1F  
千葉営業所 TEL (0472)47-6622
- 神奈川 〒211 川崎市中原区木月1184 ヤマハ日吉センター内  
神奈川営業所 TEL (044)434-4871
- 浜松 〒433 浜松市幸3-5-8 ヤマハ四ッ池センター内  
浜松営業所 TEL (0534)71-1207
- 名古屋 〒464 名古屋市中種区東山通5-65 ヤマハ東山センター内  
中部営業所 TEL (052)782-7551  
販売二課 TEL (052)782-7551
- 大阪 〒556 大阪市浪速区敷津東1-9-16 ヤマハなんばセンター内  
関西営業所 TEL (06)647-6411  
日本橋営業所 TEL (06)647-6411  
中央営業所 TEL (06)647-6411  
販売二課 TEL (06)647-6411
- 広島 〒730 広島市中区紙屋町1-1-20 いよぎん広島ビル内  
中国営業所 TEL (082)244-3745
- 九州 〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4  
九州営業所 TEL (092)472-2131
- 本社 〒430 浜松市中沢町10-1  
ホームエレクトロニクス事業本部  
お客様ご相談センター TEL (0534)60-3421

ヤマハ株式会社

〒430 浜松市中沢町10-1

ホームエレクトロニクス事業本部

国内販売統括部 TEL. (0534) 60-3421

生産管理部サービス技術課 TEL. (0534) 60-3405

住所および電話番号は変更になる場合があります。

**YAMAHA**